

臨濟宗永源寺派大本山

# 永源寺

神仏霊場巡拝の道  
140番(近江國8番)

ZUISEKIZAN  
EIGENJI - TEMPLE



秋、ライトアップされた方丈と紅葉

## 参拝のご案内

東近江の奥座敷は紅葉前の深緑もまた美しい

永源寺の魅力は、春の新緑から夏の深緑を経て晩秋へと移ろう季節の色彩変化にあります。琵琶湖から少し離れた標高の高い場所ゆえに静かで涼しいひとときを過ごすことができます。

### ■世継祈禱 他

一心に願えばすぐれた世継を授かるという、ご本尊 世継観世音菩薩のご祈禱です。子宝・安産祈願、後継者祈願など、家内安全・健康祈願やご先祖の供養もお受けしています。

### ■研修道場 (坐禅会・研修施設)

本山永源寺で読経・坐禅・法話・食作法・作務等の行事日程で自己研鑽を行う道場です。どうぞご活用ください。(ご予約制で5名様以上)

## 開山寂室禅師650遠年諱

平成28年11月1日～平成28年11月7日

交通案内 ●近江鉄道「八日市」駅より近江バスで35分 ●名神高速「八日市IC」より車で20分 ●東名阪「桑名IC」より車で50分 ※駐車場有(私営)

瑞石山  
永源寺

〒527-0212 東近江市永源寺高野町41  
TEL 0748-27-0016 / FAX 0748-27-1055  
URL <http://eigenji-t.jp/>



永源寺境内図

自然に囲まれた静かな山中でのひとときを……



開山寂室禪師(正燈国師)

禪師は、正応3年(1290)藤原実頼七世の孫として岡山県勝山に生まれ、13歳で出家、18歳鎌倉の約翁禪師のもと大悟され、慧雲・一山等の下でさらに研鑽されました。

31歳より7年間中国に渡られ、多くの善知識とまみえましたが、中でも権威を離れ幽寂な山中での修行を好まれた天目山の中峰和尚の教えに大きな影響を受け、帰朝後は各地を行脚説法の旅を続けられ、晩年72歳で永源寺に入寺開山されました。

この地の山紫水明を深く愛され、京都や鎌倉からの再三の招きにも応じず、貞治6年(1367)78歳で示寂されるまで修行僧の教化に専念されました。昭和3年、昭和天皇より正燈国師の号を賜りました。禪師のすぐれた漢詩や墨跡は、その教えを端的に伝えています。

名利を求めず貧を憂えず 隠処山深うして俗塵に遠ざかる  
歳晩天寒し誰れか是れ友 梅花月を帯びて一枝新たなり

願<sup>ねが</sup>うは  
のちの  
世つぎ観<sup>かん</sup>音<sup>のん</sup>

(本尊 世継観音 ご詠歌)

あいがたき  
法<sup>のり</sup>におうみの<sup>(あ)</sup>  
永源寺<sup>えいげんじ</sup>



十六羅漢像

参道120の石段(羅漢坂)を登りつめると、左の岩山に釈迦・文殊・普賢像と十六羅漢の石仏が奉安されている。仏像はそれぞれ違ったユニークな表情をしている。

## 瑞石山 永源寺の歴史

当山は室町時代はじめ康安元年(1361)に近江の領守佐々木氏頼が寂室元光禪師の高徳を慕い、風光明媚なこの地に伽藍を創建し、禪師を迎えて開山されました。

寂室禪師の名声高く、当時2千人あまりの修行僧が集いました。また、後光厳天皇や足利義満らも深く崇信され、寺領など多くを寄進。禪師の亡き後も4人の高弟により大いに隆昌しましたが、戦国時代、度重なる兵火によって寺院堂宇ことごとくを失いました。江戸初期の寛永8年(1631)妙心寺の別峰紹印禪師は永源寺の衰退を嘆き、自ら石を曳き土を運んで方丈等の再建に尽力しました。また第79世空子和尚は名声高い一絲文守禪師(仏頂国師)に懇請し、寛永20年(1643)禪師は第80世として住山、後水尾天皇や彦根藩井伊家の帰依を得て伽藍が再興され、再び法燈が輝いたのです。

明治以来、臨済宗永源寺派として独立し、一派の本山となりました。山深い境内には質朴な伽藍が薨を並べ、葦葺き大屋根の方丈には子授け・子孫繁栄の靈験顕な本尊世継観音をお祀りし、寺内奥には僧堂を擁し、次代を担う修行僧が日夜研鑽される閑静な枯禪の古刹であります。



方丈(本堂)明和2年(1765)

本山古例の法要を行う道場。国内屈指の葦(よし)葺大屋根です。